



由利本荘

市民の窓口

会派「市民の窓口」 市政と市民の橋渡し会報



2025 年 10 月の市議会議員選挙で市民の皆様より選出された現在 2 期目の議員、大友孝徳、松本学の 2 人で立ち上げた、常に市民の代弁者たる会派「市民の窓口」です。

vol.5

2026 年 3 月

会派の理念

- 1 常に市民の目線に立ち、協働して、由利本荘市を「みんなでつくるみんなのまちに」をテーマに、市政の可視化、議会の活性化に向けて行動します。
- 2 私たちは 1 人の自立した議員として、各自の問題意識に基づいて自由な調査・研究・論議を通じて問題解決を目指します。
- 3 様々な決議に対し会派拘束は行わず常に是々非々で各自の責任で判断します。

市議会議員 2 期目に向けて

令和 7 年 10 月の市議会議員選挙を経て、4 年前に右も左も分からない新人 2 人で立ち上げた当会派「市民の窓口」は、新たに 2 期目の議員 2 人で再び、由利本荘市議会での『市民と市政の橋渡し役』の任をしっかりと背負い直し、活動させていただく事となりました。大友孝徳、松本学を応援して 1 票を投じて下さいました皆様に改めて、心より感謝申し上げます。

分からないながら手探りで、議員たるものの立場において自分たちのまちの未来の為にがむしゃらに活動し続けた 1 期目の 4 年間は、思い起こせばただ気合と勢いで突っ走り、自身の無知さをも武器に直感だけを頼りに戦い抜いたような、あっという間の時間でありました。不器用ながら、そんな活動を通してこそ得たものは、確かに今の私たちの基礎を作り、これからの 4 年で向かうべき方向をはっきりと示しているように思います。

「みんなでつくるみんなのまちに」この会派理念を今一度心に刻み直し、2 期目も市民の皆様と共に、よりよい由利本荘市の未来のために活動して参ります。引き続きよろしくお願いいたします。



2026 年 3 月議会でも大友が一般質問、松本が会派代表質問を行いました



議会活動報告

「議会活動報告」市議会議員2期目を迎え、各自が取り組んでいることをお伝えします。

大友 孝徳（おおとも たかのり）（会派「市民の窓口」会長）

昭和 37 年 旧大内村高尾生まれの 63 歳。
本荘高校卒業後上京しアパレル業界へ。32 歳で独立しアパレル企画会社設立。
大手商社のブレンとして 20 の国と地域に 300 回以上渡航し、世界とのビジネスに没頭する。2017 年に帰郷し「大友商店」設立。
現在は本荘駅前市場で「自由食堂」を経営しながら「子ども食堂」を運営。
「有言実行」で「由利本荘市をみんなでつくる、みんなのまちに！」。



1 期目 4 年間でやり残した宿題をやりきるために出馬した、昨年 10 月 19 日の出陣式で、私は皆さんに以下のお約束をしました。
『なんとなく縮小する由利本荘市、変わろうとしない由利本荘市を、皆さんと共に変えましょう！チェンジにチャレンジ！あなたが思う市政実現に尽力します』

この思いに共鳴し、大事な 1 票を投じていただきました皆様、本当にありがとうございました。お陰様で、この約束を実現させるための 4 年を迎えることができました。

『有限実行』の大友孝徳は、早速 3 月議会の一般質問において「今こそ改善と挑戦を！」をテーマに、以下の提案をさせていただきました。

- 1, 市民参加を促進するためのパブリックコメント制度改善について ⇒ 市民がもっと声を上げやすい環境を、もっと積極的に整えましょう！
- 2, 本市でも稼ぐ挑戦を ⇒ 山形県西川町や岩手県山田町の先行事例に学び、新たな財源確保と職員の意識改革を目的に、稼ぐ自治体へ転換する施策に取り組みましょう！
- 3, 住宅向け PPA 導入で家計支援と脱炭素および災害耐性向上を⇒PPA（事業者が需要家の屋根などに太陽光発電設備を無償設置し、発電した電力を需要家が買い取る仕組み）導入など、本市が主体的にエネルギー事業に関わることで、住民の負担軽減、脱炭素、地域経済循環、そして災害対策を同時に実現させましょう！
- 4, 地域間格差を生まない部活動地域展開のために交通支援を⇒市所有バスやスクールバスなどを活用して、保護者の送迎に依存しない仕組みを構築し、本市の中学生が、居住地や家庭の事情によって、やりたいことを諦めることがないように、「地域クラブ活動の盛んな由利本荘市に生まれて良かった」と思えるように、持続可能な部活動地域展開を目指しましょう！

これらの提案に対する市当局の答弁は、おおむね「提案内容の実現は困難だが、引き続き研究・検討する」でした。しかしながら、これまで市当局の視野に入っていなかった、新たな施策や先行事例を提案することは、由利本荘市を変えるための第 1 歩として、とても有効と考えます。これからも「チェンジにチャレンジ」を継続いたしますので、皆様の思いを、ご意見を、ご提案を、大友孝徳にお寄せいただけますようお願い申し上げます。



松本 学（マツモト マナブ）（会派「市民の窓口」幹事長）

昭和 54 年、旧本荘市石脇生まれの 46 歳。
音楽に出会い、鳥海山に出会い、自分の好きなことを貫いてきた。結婚し、子供が生まれ、自分という幹に枝葉ができ、まちのこと、人のこと、子供の未来のことを考えたとき、これから自分がすべきことが見えてきた。妻と娘と妻の両親と 5 人で西目に暮らす。

令和 7 年度最後の 3 月議会では、これから 10 年の本市の道筋を示した市政の最上位総合計画「ゆりほん未来プラン」が議案として提出され、可決されました。我らが由利本荘市は、その計画が目指す未来に向け、新たな 1 歩を踏み出した、という事になります。今後の様々な施策の全てはこの計画に沿って施行される事となり、それはいわゆる全ての取り組みの根拠となる、という事に他なりません。内容については 4 月 1 日号の市政だよりを皮切りに、ホームページや SNS などで公開されると聞いておりますので、是非ご一読頂き、市民の皆様ひとりひとり、自分自身の理想のまちの姿と見比べながらご確認頂けたらと思います。

先日の 3 月議会での会派代表質問では、「ゆりほん未来プラン」の内容について、当会派の活動理念である「みんなでつくるみんなのまちに」を掲げる立場から、市民への周知、曖昧な表現の説明、様々に本市の課題に大きく関わる施策について質問させていただきました。

令和 8 年 3 月議会「会派代表質問」

● ゆりほん未来プランの目指す 10 年後のまちの姿について

● 最重要課題とする人口減少下にあっても市民が豊かに暮らせるまちづくりについて

● 3 つの施策の柱について

1. 少子高齢化とそれに伴う人口減少に向けた取り組み
(1) オンデマンド交通「ゆりほんのれッタ」の今後について
(2) 由利本荘市中小企業振興基本条例について
2. 地域資源を活かした関係人口の拡大と外貨獲得の実現への取り組みについて
3. 頻発化・激甚化する災害から市民の財産や生命を守る取り組みについて

● 森林環境譲与税の活用と J-クレジット制度の取り組みについて

● 環鳥海エリアの一体的な観光振興について

● 「架け橋プログラム」について